2015.3.30　冨松

**htmlソースの改行と半角スペース**

htmlソース内の文章の途中や、＜span＞タグなどの前後で「改行」（htmlタグ<br>ではなく、ソース上のEnterキーの操作）すると、ブラウザはこの「改行」を「半角スペース」1つとして表示することを、我々は経験上知っています。この事実について、少し体系的に調べてみました。

**＜改行と半角スペースの由来＞**

エディタで右のような英文を書いたとします。1行目はlanguageの後で改行されていますが、これをブラウザで表示したとき、2行目のusedと結合して「languageused」となるとおかしなことになります。ここは単語の区切りなので、空白文字が必要です。つまり、ブラウザではソース上の改行は、空白文字に等しい扱いとするのです。改行を半角スペースにする由来は、ここから来ています。

HTML is the standard markup language used to create web pages.

ただし、日本語などは文字を区切る改行は、空白扱いでない方が都合がいいのですが、ブラウザの歴史的経緯もあるようです。古いブラウザでは改行は空白扱いにしなかったようですが、現在では全てのブラウザで改行は「半角スペース」扱いとしています。例えば、IEではVer.7以前は空白扱いではなかったのですが、Ver.8以降は空白扱いとなっています。（F12 開発者ツールでエミュレーションできます）

**＜文章の途中・文頭の改行と半角スペース＞**

htmlソース上では、**文章の途中**では、句読点「。と、」の有無に関わらず何回「改行」しても（全て入力はされます）、ブラウザは「半角スペース」１つと認識します。また、同様に「半角スペース」もいくつあっても（全て入力はされます）、「半角スペース」１つと認識します。ただし、**文頭**（htmlタグ<br>の後も含む）では、「改行」と「半角スペース」はいくつあっても（全て入力はされます）全て無視します。

**＜インライン要素の前後の改行＞**

インライン要素はその前後に改行は入らず、テキストの一部として扱われ、テキストレべル要素ともいわれます。従って、htmlソース内の＜span＞ ＜a＞ ＜img＞などの「**インライン要素はテキストと同等**」に扱われ、その前後で「改行」があると、ブラウザはこの「改行」を「半角スペース」として表示します。

例えば、下記htmlソースの＜span＞や＜a＞の前後で「改行」することで確認できます。

<img src="../image/roseline1.gif"><span class="back"><a href="javascript:history.back(-1)">&laquo;&nbsp;Back</a></span>

北・支部長のひとり言より （動作確認を容易にするため、タグ間のスペース とalt=”” は削除しています）

<img src="../image/roseline5.gif"><a class="back" href="javascript:history.back(-1)">&laquo;&nbsp;Back</a>

南・支部長挨拶より （動作確認を容易にするため、style="margin: 0 100px 0 100px" は削除しています）

**（注）ブロックレベル要素**では、開始タグと終了タグそれぞれの前後の「改行」・「半角スペース」・「Tab」はすべて無視されます。ソースの整形は、このブラウザの仕様に基づいて行います。

**＜HPBの「ページ編集」タブにおける操作＞**

前項までの内容は、エディタ（HPBの「HTMLソース」タブを含む」）で書いた内容を、ブラウザで表示するときの**ブラウザの仕様**の話です。これに対してこの項では、**HPBの「ページ編集」タブの仕様**についての話です。

・文章の途中の「改行」は、htmlソースにはそのまま改行タブ<br>として挿入されます。

・文章の途中の「半角スペース」は、複数個入れると1つだけ有効で、2つ目以降は挿入できません。

・改行タブ<br>後の文頭：「半角スペース」は挿入できません。

・「Ctrl＋半角スペース」とすれば、いくつでもどこにでも「&nbsp;」（no-break space）を挿入できます。

以上